

平成27年度第1回「木曾悠久の森」管理委員会

開催日時及び場所	平成27年6月19日(金) 8:30～ 10:30 木曾森林管理署 会議室
出席委員	飯尾 歩 (中日新聞社 論説委員) 池田 聡寿 (池田木材(株) 代表取締役社長) 大浦 由美 (和歌山大学観光学部 教授) 大住 克博 (鳥取大学農学部付属フィールドサイエンスセンター 教授) 下嶋 聖 (東京農業大学短期大学部 助教) 杉田 久志 (森林総合研究所四国支所 産学官連携推進調整監) 田上 正男 (上松町長) 野村 弘 (木曾官材市売協同組合 理事長) 増田 今雄 (信濃毎日新聞社 編集委員) 山本 進一 (名古屋大学 名誉教授(岡山大学 理事・副学長))座長 山本 博一 (東京大学大学院 教授) 横山 隆一 (日本自然保護協会 参事) 管理委員16名中12名出席 五十音順
議題	(1)管理委員会、専門部会の位置付け等 (2)平成27年度以降の取組工程 (3)平成27年度の取組 (4)保護林制度の見直し (5)取組区域内の平成27年度の事業予定
概要	○ 資料1～3について、次のとおり修正のうえ了承された。 ・資料1の役割分担のうち、(2)②「赤沢自然休養林のレク森に関すること」については、管理基本計画策定専門部会と植生管理専門部会もすること。 ・資料2の取組工程表については、項目別ごとに、いつまでに何を行うのか、ステップを刻んで明確にするよう、今後、各専門部会で検討のうえ修正していくこと。 ・資料2の取組工程表のうち3(2)①「特殊用材の需要・要望があった場合の対応について」において、H26年度に手順等の整理」が完了しているように記述されているが、未検討であるので修正すること。  ○ 委員からの主な意見 ・取組項目については、直ちにできることとできないことを整理のうえ、直ちにできること(木曾ヒノキ美備林と温帯性針葉樹林の違いやこの取組の必要性の発信)を工程表に入れること。 ・昨日は、取組区域の森林を視察したが、この地域の木材の利用状況も視察する必要がある。 ・コアbの区域には、母樹となる天然林が少ない箇所があり、その施業方法を検討することが重要である。 ・木曾ヒノキ材の長期的な供給見通しの方向性が示されなければ、今後予定される文化財の修復用材等への供給可能性を検討できない。 ・伐採・新植を繰り返す施業方法から、天然林へ誘導する超長伐期の施業方法へ大きく転換すること、取組区域が広く森林の状況もかなり違っていることから、それらを踏まえた検討が必要である。 ・今回の写真コンテストは、募集期間が秋の彩りの時期が入っていないので、引き続き第2弾、第3弾の企画を検討願いたい。 ・赤沢自然休養林の奥千本地区は、世界を代表するヒノキ美林と考えている。そこを守るために人為を全く加えないのではなく、ヒバを除伐することも検討願いたい。 ・どういう森林を目指すのかは、イメージが複数あり、今1つにする必要はないが複数有ることを念頭に検討していく必要がある。  ○ 事務局からの報告 ・管理委員会の名称について、広く国民に本取組への理解を促し、親しみをもって覚えやすくするため、「木曾悠久の森管理委員会」へ変更すること。 ・今後改正予定の林野庁長官通達によっては、変更もあり得るが、本管理委員会を「木曾悠久の森」エリアの保護林設定委員会と兼ねることを検討していること。